

第1期（2022年募集/2023年助成） 助成事業活動報告

一般財団法人サンライズ財団

助成先団体一覧

【環境助成金】

No	申請団体名	申請事業名	所在地
1	特定非営利活動法人緑の環・協議会	苗木の森広場プロジェクト	千葉県
2	NPO法人 三浦半島生物多様性保全	谷戸田の伝統的耕作によるトウキョウサンショウウオの生育環境保全	神奈川県
3	NPO法人 環境とくしまネットワーク	「脱過疎+脱炭素」に向け、災害時に強いしくみづくりー地エネ活用+モビリティEV実証	徳島県
4	特定非営利活動法人はちろうプロジェクト	「はちプロ学生部」の次世代育成につなぐ、「八郎潟モグリウム」調査・活用事業	秋田県
5	特定非営利活動法人リトカル	校庭や近隣緑地の樹木とICTを活用した小学生向け自然学習環境作り	千葉県
6	特定非営利活動法人公益のふるさと創り鶴岡	鶴岡市森林公園ケヤキの森ビオトープ池復活大作戦	山形県
7	特定非営利活動法人オオタカ保護基金	サシバの里を未来につなぐ「里山ようちえん」	栃木県
8	特定非営利活動法人ファーミングサポート北海道	罨による鳥獣被害対策人材育成プログラム	北海道

【未来につなぐ糸助成金】

No	申請団体名	申請事業名	所在地
1	山形県鶴岡市	日本遺産魅力発信推進事業補助金（シルクで頑張る若者応援事業）	山形県
2	群馬県蚕糸技術センター	担い手育成プログラム	群馬県

助成先団体の活動

【環境助成金】

特定非営利活動法人緑の環・協議会

■ 苗木の森広場プロジェクト

違法な山砂採取の為に森が伐採され大穴を空けられた2haの土地を元の水源涵養林に戻す。既存2,800本超の苗木が健全に育つようにメンテナンスしつつ、新しい苗木を少しずつ増やしていき、3,000本の立派な森に育っていることが目標。



NPO法人三浦半島生物多様性保全

■ 谷戸田の伝統的耕作によるトウキョウサンショウウオの生育環境保全

絶滅危惧種であるトウキョウサンショウウオは、神奈川県では三浦半島のみ自然分布しているが、その生育環境は年々減少している。本種の繁殖地となる谷戸田の再生を通して地域絶滅を回避するだけでなく、里山の景観の承継と、子供たちへの原体験の場を創出する。



NPO法人環境とくしまネットワーク

■ 「脱過疎+脱炭素」に向け、災害時に強いしくみづくり ー地エネ活用+モビリティEV実証

四国過疎地の共通課題、地域住民が日常生活に不可欠な「小さな拠点」を軸に「安心+安全」な暮らし+BCP（事業継続計画）対策をした交通インフラ、安定電源確保、エコ社会を構築し、移動EVモビリティカート×地域資源活用エネ発電供給ステーション構築で、非常時に対応できる住民力による地域主導型の交通弱者救済コミュニティづくりを展開する。



特定非営利活動法人はちろうプロジェクト

■ 「はちプロ学生部」の次世代育成につなぐ、 「八郎潟モグリウム」調査・活用事業

「はちプロ学生部」に参加している有志大学生に、八郎潟の水草（モグ）再生を目指す事業「八郎潟モグリウム」の環境変化を定期調査してもらう。水草の生育、水生昆虫の飛来・羽化、ミジンコの増殖、水質などを観察し、若者視点で見たモグリウムの魅力を情報発信することで、将来の八郎湖流域を担う次世代の育成につなげる。



特定非営利活動法人リトカル

■ 校庭や近隣緑地の樹木とICTを活用した小学生向け自然学習環境作り

子どもたちが身近な木を通じて自然に関心を深めてもらうため、自然学習ツール「はなもく散歩」を改良し、子どもたちが校庭等の木の樹名板を小学校のタブレットでスキャンしながら自然学習する環境をつくる。さらに、小学生の先生達と連携して、この環境を使って理科教育や総合的な学習の時間等で活用できるように検討する。



特定非営利活動法人公益のふるさと創り鶴岡

■ 鶴岡市森林公園ケヤキの森ビオトープ池復活大作戦

ケヤキの森にあるビオトープ池は30年以上放置され、ヘドロがたまりザリガニしかいない通称ザリガニ池となってる。一昨年よりビオトープ池にできないか調査や手入れをしているが、ヘドロの浚渫（しゅんせつ）はボランティアでは不可能なため業者を入れて浚渫をおこなう。同時進行で魚類調査や水生生物調査をしながらビオトープ池の再生を図る。



特定非営利活動法人オオタカ保護基金

■ サシバの里を未来につなぐ「里山ようちえん」

里山が広がる栃木県市貝町の「サシバの里自然学校」で、同町内および周辺の幼稚園などを対象に、年間18回野遊びや生きもの探しを行う「里山ようちえん（野あそび）」及び、園児を含む家族を対象に年間2回森づくりをする「里山ようちえん（森づくり）」を開催する。また、これらの活動を広く普及するためのパンフレットを作成する。



特定非営利活動法人ファーミングサポート北海道

■ 罾による鳥獣被害対策人材育成プログラム

科学的な知見と罾の匠のノウハウを融合させた人材育成プログラム（害獣の生態と行動、それらを踏まえた効果的な罾の仕掛け方、IoTを活用した鳥獣対策等）で人と野生動物の生活域のゾーニングを実現できる人材の育成を図る。



群馬県蚕糸技術センター

■ 担い手育成プログラム

全国1位の繭生産量を誇る群馬県だが、農家の高齢化や後継者不足、繭価格の低迷などにより養蚕農家戸数の減少が続いている。群馬県は、県の伝統産業である蚕糸業（養蚕・製糸）の持続的発展に向けて、多様な担い手の育成・確保を重点課題としている。

群馬県蚕糸技術センターは、養蚕に関する試験研究と養蚕農家への技術支援・普及を行っている。平成26年に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に認定されたことにより、蚕糸業へ興味を持つ人が増え、養蚕を始めたいとの問い合わせが寄せられるようになったことで、平成28年3月からは養蚕担い手育成のためのプログラムを開始した。

担い手育成プログラムは、養蚕を全く知らない人でも参加しやすいよう、段階を踏んで研修を進めているが、必要な機材の予算不足で桑園管理、蚕病防除に係る作業研修が十分にできない状況にある。未来につなぐ糸助成金を活用して、研修専用の桑園管理機、蚕病防除機等を購入し、操作方法、メンテナンス、農作業安全も含めて実践的な研修を継続的に実施していく。

